

2015 SUPER GT
LMcorsa・Race Report
第3戦 タイ・チャーン・サーキット

◆ 6月21日(日) <決勝> 天候:晴れ | コース状況:ドライ

#60 SYNTIUM LMcorsa RC F GT3 / 飯田章・吉本大樹
リタイア / 25周



前日に比べると、幾分曇が多くなった決勝日。それでもSUPER GTの決勝レースが近付くにつれ晴れ間は広がっていき、決勝スタート直前のコンディションは気温 37℃、路面温度も 50℃まで上昇することになる。この日のタイムスケジュールだが午前 9 時 50 分から 10 時 20 分までマシンのコンディションをチェックするフリー走行が行われ、引き続いてサーキットサファリが実施されることになっている。さらにサポートレースやピットウォークを挟んで午後 1 時 50 分には決勝レースに向けてのスタート進行が始まり、いよいよ午後 3 時にはローリングラップが開始され、300km の決勝レースがスタートする。

土曜朝一番の公式練習のセッション中に駆動系にトラブルが発生した#60 SYNTIUM・LMcorsa・RC・F・GT3 は、午後の公式予選にも出走できずに予選通過基準タイムをマークできずに予選不通過となった。そこでチームは主催者に嘆願書を提出、結果的に日曜朝のフリー走行で、2 人のドライバーが一定のタイムをマークする必要があった。前夜は遅くまでスタッフが修復作業を急いだこともあり、何とかこの朝のフリー走行に出走することが可能になった。まずは吉本大樹が乗り込みピットアウト。1 周回ってマシン確認のためにピットイン。ここでは大きな異常もなくすぐに吉本はピットアウト。最初の計測ラップで 1 分 37 秒台に入ると次の周には 1 分 36 秒 752 をマーク。結局これが彼のベストタイムとなった。ピットに戻ってきた吉本に代わり、今度は飯田章のドライブで#60 SYNTIUM・LMcorsa・RC・F・GT3 はピットアウトして行った。飯田もあっさりと 1 分 38 秒台のタイムをマーク、これで決勝出場が可能となった。その後チームはサーキットサファリの時間帯も使いながらマシンの最終確認を行うと同時に、レースに向けてルーティンピットのシミュレーションなども行っている。

午後の決勝レースでは吉本が、スタートと前半のステイットを担当する。気温 37℃ の猛暑の中、マシンに乗り込んだ吉本は、隊列の最後、38 番目のグリッドからスタートして行った。オープニングラップで 1 台をかわした吉本は 3 周目には 36 位に進むと、次の周にはさらに 2 ポジションアップ、と隊列の後方ながら見る見るポジションを上げていった。ラップタイムを見ても、オープニングラップの 1 分 40 秒台が 3 周目には 1 分 39 秒台、4 周目には 37 秒台に上げ、5 周目からも 38 秒台で constants にラップを重ねていくなど、吉本が頑張っていること、そしてクルマが好調なことは明らか。ピットでもタイミングモニターに向かって大きな声援が飛ぶようになってきた。



吉本はなおも快進撃を続け、25 周目にはクラス 13 番手までポジションを上げてコントロールラインを通過する。この週のラップタイムは 1 分 37 秒台に入れており、開幕戦以来の入賞も見てきた矢先、コースサイドに停まった#60 SYNTIUM・LMcorsa・RC・F・GT3 の姿がモニターに映し出される。クルマをちゃんと分析してみなければ詳しいことは分からないが、またも駆動系のトラブルだった。

前戦に続いてのリタイアとなったが、そこまではちゃんと戦えるようになったのも事実。トラブルをキッチリと分析して対策を講じ、次戦では再びの快走を。チーム全員が、そう心に期してシリーズ第 3 戦は幕を閉じた。



ドライバー／吉本大樹

「また、残念な結果に終わってしまいました。応援してくれた皆さんには申し訳ないです。でも、トラブルが出るまでは良い感じで走ることができました。8 月の富士までには、もっと頑張れるクルマに仕上げて、好いレースをしたいです。これからも応援して下さい」

監督／小林敬一

「またも駆動系のトラブルでレースを終えることになってしまいました。それでも、決勝レースでトラブルが再発するまでは、好い感じで走っていて、今回もまた、より確実な手応えを掴むことができました。まずはトラブルなくレースを走りきれるようにすること。それができれば、もう一段上のステップに上がることができると思います。日本に帰ったら、その辺りをきっちり対処したいと思います」